

ALP アイザイム				359000	
				担当部署	
ALP アイ				一般	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			8 : 15 ~ 16 : 00		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			早朝空腹時の採血が望ましい。 EX 一般 239「クイック EP BAP-IF 試薬添付文書」		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	2	mL
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体 3) 量不足 4) 粘性のある検体		
保管検体の保存期間			2℃から 8℃冷蔵保存 14 日（追加検査については検査室に要問合せ）		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～7 日				
生物学的基準範囲		ALP1 0.0～5.3% ALP2 29.3～67.9% ALP3 26.9～67.6% ALP5 0.0～18.1% EX 一般 239「クイック EP BAP-IF 試薬添付文書」				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値		高値	該当なし			
		低値	該当なし			
生理的変動要因		小児から思春期までは ALP3 が優位。 妊娠後期には耐熱性の ALP4 が出現する。 血液型（B 型、O 型）の人は、食後に ALP5 が優位になる。				
臨床的意義		ALP は、腎（近位尿細管）、小腸（粘膜上皮）、骨芽細胞、胎盤、肝（毛細胆管）、乳腺などに比較的高濃度に存在し、細胞膜に局在して、膜を通してのリン酸の転送に関与していると考えられている。血清中本酵素活性の増大は、主として骨疾患（骨形成の旺盛な場合）、肝・胆管疾患（閉塞性黄疸など）、妊娠、悪性腫瘍などにみられる。ALP のアイソザイムを分画し由来臓器の推定が可能となる。 EX 一般 212「臨床検査法提要改訂第 31 版：613,1998」				